

いずみのひろば

2022年10月号
日本基督教団堺教会
NO.525 教会学校



「力持ちのサムソンさん」

士師記16章23節～31節

神さまはイスラエル人を導くために、士師と呼ばれる指導者を用いられました。このことを伝えているのが士師記です。士師には、いろいろな働きがあり、イスラエルが正しく歩むために裁きを行う士師もいれば、敵が攻めてきた時に立ち向かっていく士師もいます。今日は、力持ちのサムソンさんのお話です。

イスラエルの人々が、またも神さまのことを忘れ、神さまが悲しまれるようなことばかりしていたため、怒った神さまのお考えによって、ペリシテ人がイスラエルの人々を苦しめていた時代にサムソンは生まれました。サムソンはお母さんのお腹の中にいるとき、神さまからのお告げによって、ナジル人とされました。ナジル人というのは、神さまにささげられた人のことで、ぶどう酒を飲まず、ぶどうの実から作られた物を食べることをせず、生まれたときから髪の毛を切らないことが、目に見える印でした。神さまはサムソンを士師として選び、ペリシテ人の手からイスラエルの人々を救うというご計画を立てられました。そのために神さまはサムソンに強い力を与えられました。それは、襲ってきたライオンを手で引き裂くほどの強さでした。また、ペリシテ人に捕らえられた時には、縛ってあった縄をあっという間にほいほいしてしまったり、ペリシテ人千人を手を持ったロバのあごの骨で打ち負かしたこともありました。ペリシテ人は、サムソンをやっつけることができず、ほとほと困り果てていました。

その頃、サムソンは、デリラという美しい女の人が好きになりました。それを知ったペリシテ人の領主たちは、デリラに「サムソンの力の秘密を探り出したら、ほうびに銀千百枚を与える。」と約束しました。デリラはサムソンから何度も力の秘密を聞き出そうとしました。しかし、サムソンはなかなか本当のことを言いません。デリラは毎日、毎日、「私を愛しているなら、力の秘密を教えてください」と、甘えたり、泣いたりしてサムソンに迫りました。とうとうサムソンは、デリラの言葉に負けてしまい、力の秘密は、「生まれたときから一度も切った事が無い長い髪の毛にある」と教えてしまいました。デリラは、サムソンを膝の上で眠らせて、人を呼び、サムソンの束ねてあった髪の毛をジョギョキと切ってしまいました。サムソンの怪力はなくなり、ペリシテ人はサムソンを捕らえると両目をえぐり出して牢屋に入れました。目が見えなくなったサムソンは、銅のくさりにつながら、毎日、毎日うすをひかされました。ペリシテ人たちは大喜びです。

ペリシテ人のお祭りの日、サムソンはダゴンの神殿に見世物として連れ出されました。三千人以上のペリシテ人たちがサムソンを笑いものにしました。サムソンは見えない目で天を仰ぎ、神さまに祈りました。「ああ、神よ。今一度、私に力を与え、ペリシテ人をやっつけて下さい。」サムソンは、手探りで神殿を支えている二本の柱の間に立ち、柱に手をかけてゆすり始めました。牢にいる間にサムソンの髪の毛は伸び始めたのです。サムソンは力を込めて二本の柱を抱き寄せました。すると、神殿がくずれ落ち、その場にいたペリシテ人が何千人も死にました。サムソンもその下敷きになって死に、20年の士師としての働きが終わりました。

私たちも、神さまを信じて祈り求めるなら、勇氣と力は神さまがくださいます。神さまと一緒にいることが一番たいせいなことです。

(記・米澤佳世子)